とうきょう　すくわくプログラム活動報告書

園名	草花保育園
活動日時	令和7年10月23日（金）
クラス名（年齢）	ことり組（1歳児）
年間テーマ	自然

1、活動テーマ

＜テーマ＞

柿の実に触ってみたよ

＜テーマの設定理由（子どもの姿）＞

・園庭の隣りのお寺の敷地に柿の木があり、「柿だよ」と知らせると日頃から楽しんでいる歌「からすとかき」を歌う子どもがいたため触ってみた

2、活動スケジュール

・実際に柿の実を手に取り、匂いをかいだり硬さなどを感じることで季節の自然に触れることを楽しむ

3、環境をデザインする（活動のために準備した素材や道具、環境設定）

・お寺からいただいた柿の木、柿の実
・季節の歌「からすとかき」を子ども達と一緒に楽しむ

4、探究活動の実践

＜活動内容＞

・第二園庭で遊ぶ時に柿の木があることを知らせたり、徐々に実が大きく色づいてきた様子を見て楽しんでいた。
・この日も子ども達と柿を見ているとお寺の副住職が柿の実をもいでくださり、実際に手に取って触れてみることで興味が持てるようにする。
・匂いをかいだり、手のひらや指先で触れてみることで硬さなども感じられるようにする。

＜活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり＞

子どもの言葉・姿	写真
・園庭に行き、奥にある柿の木を見て「赤くなっているね」などと言葉を掛ける。 ・興味を持ち、保育者の真似をして「赤いね」「大きいね」などと言いながら指を差して見たり「ちょうだい」と言いながら興味を示す。 ・お寺の副住職がもいでくださる様子を見て興味津々に手を伸ばして受け取るが、初めは不思議そうな表情で指先でつんつんとするなどして少しずつ触っていた。 ・「柿だよ」「給食で食べたことがあるね」など言葉を掛けると食べ物だと分かり、顔を近付けて匂いをかいだり「あーん」と口を開けて食べる真似をするなどして見ることを楽しむ。 ・ひとつの柿の実を友達と一緒に見ていると歌「からすとかき」の歌詞にある振り付けをする子どもがいたので、柿の木の前で「からすとかき」の歌を皆でうたい楽しむ。	

5、振り返り（振り返りによって得た保育者の気づき）

・クラスでは10月に入ってから歌「からすとかき」をうたい始め、以降園庭に遊びに行く際には子ども達と柿の木を見て「柿だね」「大きくなるかな？」など観察をしながら生長を楽しみにしていた。あっという間に色付き、大きくなった柿を眺めていた子ども達は「欲しい」と言うこともあった。その中お寺の副住職が柿をもいでくださり自分の手に取り、触れることができて嬉しそうだった。
・実際に柿の木を見たり、木になっていた柿の実を手に取り触れてみることで子どもから歌で楽しんでいる振りをするなど、歌を思い出している様子が見られた。季節の歌から季節を感じることはまだ難しいと思っていたが、その姿からつながるものがあるのだと感じた。子どもの姿から取り入れたり、広げていく活動を今後も考えていきたいと思った。